



全国スキー協通信

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2 大住ビル 402 TEL 03-3971-4145

URL <http://www.mmjp.or.jp/wsaj> e-mail wsaj@post.email.ne.jp

2018 年 4月1日 No.454 発行責任者 小川洋 編集 芦村憲一

【郵便振込み】口座番号：00180-7-82138 加入者名：全国勤労者スキー協議会

好天の全国スキー・スノーボード競技大会

3月3～4日 戸狩スキー場で熱戦

第44回全国スキー・スノーボード競技大会は3月3～4日に長野県戸狩スキー場で開催され、2日間とも好天の中で熱戦が繰り広げられました。参加者の2人から、感想をいただきましたので紹介します。

◇ ◇ ◇

群馬スキー協 穂積麦さん

全国スキー・スノーボード競技大会に行ってきました。群馬からは8名（他、大会役員1名）が参加。去年群馬スキー協からの参加者が少なく「群馬はどうした？」と心配されたようですが、今年は大丈夫。参加者は100人を超え、2日間とも好天でした。ウェアは本格的なワンピースから普段のスキーウェアの方までさまざまでこの大会のフレンドリーさがよく現れています。

GS、SLともに比較的緩やかなゲレンデにセットされます。出だしはちょっと斜度がありますが、その後なだらかな緩斜面と続きます。競技経験のない方でも安心して滑れるように配慮がみえます。しかしゆるやかな起伏があって落ち込みにスルーがセットされてちょっとした罠になっていたりと、ゆっくり滑る人には優しいコースセットなんだろうけど、ハイスピードな選手ほどリスクは増すようになってるようです。

44回という長い経験によって、いろんなレベルの人が楽しめる競技会に仕上げられています。競技のクラスは年齢別に細かく分けられているほかビギナークラスもあって、コースの優しさのほかに、全くの競技初心者も「楽しく競い合う」ことに参加できるのはうれしい配慮だと思います。今年は（群馬の）中村先生夫妻がこのビギナークラスに出場して、ポールの中を堂々と滑っているご夫妻の姿を見て「一生懸命練習した成果がみごとにでている」との感想が聞かれました。

わたしは2度目の参加です。前はGS、SLともに一本目が完走できず、今回はぜひ4本とも完走したいと目標を立てて実現することができました。でも完走するために「タイムを犠牲にしたんじゃないか？」という気持ちが常に付きまとっています。それから2秒の中に群馬の5人がひしめくという事態はライバル関係を意識させるもので、これもタイムへの執念を呼び覚ますようでした。



（2面につづく）

(1面からのつづき)

「安全に滑りきりたい」と「いいタイムを出したい」という両方を手に入れたいと思うようになってきたら、なんかの罫にはまりつつあるんでしょうか。なにはともあれ、スキー競技がだんだん楽しくなってきたようです。来年はもっと大勢で行きましょう。

埼玉スキー協 富田めぐみさん

久しぶりに競技大会のポールをくぐることができ、楽しかったです。また、久しぶりに会う仲間とおしゃべりも楽しかったです(こちらがメインな気も…)。

エントリーはしたものの、子どもたちの機嫌次第で滑れるかどうか分かりませんでした。天気もよく、子どもたちも楽しめたので、助かりました。

長男は初めて大きな大会に出ることができ、目標になるお兄ちゃんたちに遊んでもらったり、一緒に滑ってもらったり、夜はワックスがけまで教えてもらって、一生懸命でびっくりでした。また(長男は)旗門不通過で記録が出ず、悔しい思いもしてと、いい経験になったのではないかと思います。

家族での参加(夫婦、子ども2人)は、お金も時間も準備も大変ですが、また行きたいです!!

(写真は富田めぐみ選手と吉越貴幸選手、提供・関谷義孝氏)

第19回スキー協カップ(スーパーG)開催される 競技初心者にも優しい大会だった

3月17～18日開催のスキー協カップに参加しました。会場はキュービットバレイのラメールコース(SAJ・B級公認コース、最大28度、平均15度、1,500m)。群馬からは5名が参加し、全体で競技参加者は40名。

スーパーGはSuper Giant Slalom skiingの略称です。要するにダウンヒルと大回転の中間に位置するスキー競技で、ポール間の距離は25メートル以上、35旗門以上という設定らしいです。

私はスーパーG初体験です。私の聞いていたところでは、「スキー協のスーパーGはインターバルが長くてゆったりとしたリズムで、気持ち良くロングターンが続く」「ジャンプ台もない」というふうに、どちらかという競技初心者にも優しい大会というイメージがありました。そこで「全国大会にも参加して、いづらか競技にも慣れてきたし、スーパーGも体験してみようか、なんとかなるだろう」という気持ちで初参加しました。

スキー協カップは初日が練習会、2日目は2本の大会競技です。セッターのキュービットバレイの石野さんは競技終了後に、「特に急斜面では初めのセットはスピードを抑制するようにして、次のセットから徐々にスピード系に変化させました。」とのコメントがありました。これは、インスペクション時に荻原さんが漏らしていた感想とぴたりと一致します。また計測するたびに選手のタイムが短くなっていることにも表れていました。すごいもんですね。

初日の練習会は、やはり高速系の競技ですし、参加者にはレーサー以外の一般の人もあるわけですからありがたい配慮です。地形は、緩斜面から急斜面そして再度緩斜面でゴール、ゆるやかに右左右にカーブ。新しいセットでは必ずインスペベをしてから滑走です。午前4本滑ってデラがけ、2本滑ってセット替え、その後2本の簡易型のタイム計測。

インスペは大事です。特に斜度変化とポールの位置関係は、これを覚えてないと滑ることができないくらい重要です。落ち込みで次のポールが見えない状態で記憶を頼りに滑っていくわけですから。実際に滑ってみるとターンのGがすごいです。板を振ったりまわしたりする機会はありません。普段のターンでは中盤以降に強いGを感じますが、スーパーGではインターバル(ニュートラル含む)でも押し付けられる感覚があります。サスペンションの限界値まで押されて微小な凸凹がじかに脳みそを揺さぶります。これを快感と感じられる人は高速

「系の人なんだろうなあ。タイムの早い人は、ゴールした後、ひざに手をついてハアハアと。そこまでいかなきゃあのタイムは出ないのかと思いました。」

2日目の大会では、練習日をより「ていねいに」実践する場でした。みなさん気合が入って低い姿勢でスタートしていきます。2日間を通じてコースアウトした人がほとんどなく、「高速系競技だけど実は安全」ということも実感できました。それから、1.5キロのコースを閉鎖して、その中を自分だけが滑っているという贅沢な経験ができるのは、こういう機会を除いては得られないでしょう。チャンスがあったらぜひどうぞ。

赤字覚悟で大会を開催してくれたスキー協のみなさん、大会運営のスタッフのみなさん、優しく指導や応援してくれた参加者のみなさん、ありがとうございました。

(群馬スキー協 穂積 麦 写真は刈谷梓選手、提供・関谷義孝氏)

初めて全国競技大会に挑戦

全国競技大会に千葉から2名で参加しました。私は全く競技の経験のない初心者でしたが、2月の東京のポールレックスに参加、ポールの楽しさを知りました。

オリンピックなどで見える競技は、自分とはまったく違う世界のように思っていたのですが、その楽しさはそれぞれのレベルに合ったもので良いのではないかと思えてきました。

よし!がんばって滑ってみよう!と全国大会に参加を決意しました。スタート地点ではドキドキでしたが、コースアウトしないで完走することを目標にしていたので、滑り出しからは何も考えずにゴールを目指しました。結果は?もちろん最下位でした。

他の人から見ればひどい滑りだと思いますが、2日間とも完走でき、目標を達成し、楽しめました。沢山あるスキーの楽しみ方の1つとして、多くの人が参加すると良いのにと思いました。(千葉スキー協・東山千恵子)

スキー協カップの旗門員、勉強になった

スキー歴約23年、スキー協と出会って20年。私は今シーズンから競技を始め、東京スキー協大会、全国大会と参加しました。今回のスキー協カップにはエントリーするつもりでいましたが、ある人から「スーパーGSだよ。スピードでやるよ!」と脅されて、考え直した次第。その後、全国スキー協役員の海野さんから「エントリーするか、または要員はできないか?」と言われ、旗門員として参加しました。

今回は41名のエントリーで少なかったが、しかし逆に、大会前日の練習会は十分すぎるくらい滑ることができました。練習会に旗門員は必要か?と疑問もわきましたが、参加者の滑りをたっぶり見させていただき、勉強になりました。上手い人ほど、1本目、2本目、3本目と回数を重ねるごとに滑りに変化があり、横ずれが少なくなり、スピードもあがり、旗門との距離やコース取りが良くなっていくことが明確にわかりました。

大会当日も快晴、気温上昇による雪面の悪化が懸念されましたが、硫酸を撒いたり、滑走者4~5人ごとにコース整備を入れたり、運営側の適切な対応で無事に終了することが出来ました。

それにしても大会を準備、運営するスタッフがスキー場関係者を入れて20名以上も必要であり、コース設定準備・片付けや記録・アナウンスなど競技大会を実施することの大変さに身を持って実感。また、お金もかかり赤字とのこと。参加者も女性は2名だけ。男性は高齢者層の割合が多く、若年層が少ないなど、競技を愛する人たちの熱い思いと行事としての継続性をあらためて考えさせられました。

最後に、今回、旗門員として多くの方の滑りを身近で見させていただき、競技初心者として自分の目指す滑りを見付けました。それは、ゼッケン15の方の滑りです。まったく横ずれなし。余計な動作もなし。コース取りも良く、カービングの板の性能を生かした滑りです。競技スキーは、自分の限界スピードへの挑戦だ!と私は捉えていたが、考えを変えました。いかにスキー板の性能を生かして滑るか、このことをテーマにしていきたい。今回自分は滑っていないのにすごく疲れました。私はスキー協カップが今後も続けられるようにお役に立ちたいと思います。(東京スキー協 村本博司)

スキーメイト

山・アルペン・ボード
人と人の心をつなぐ
スノースポーツの
専門誌

スキー協
ならではの
企画特集が
大好評！

仲間増やし リスペクト
キャンペーン中

新読者にもクラブにも **2** 大特典

- 1 スキーメイト年間購読料（年間5号分）が半額【2,000円→1,000円】になります。
- 2 増やしたクラブには新読者1人につき「500円」が還元されます。



170号「スポーツ文化で
リスペクトを確認」
新谷曉生さんとの
会長対談特集 →



← 169号
「大ケガをしても
復活できる」
スノーボーダー
金子敦さんとの
会長対談特集



申し込み書

月

日

個人直送
以外は
必ず

都道府県スキー協&全国スキー協へ申請を

■新読者のお名前

■定期購読の開始 No.

号 ~ No.

号まで

■新読者の住所と連絡先 〒

tel

■所属スキー協とクラブ名

*所属クラブなし

■すすめていただいた方のクラブ名と連絡先

■配布方法 県スキー協から配送 クラブから手渡し

■全国から直送希望

「全国から直送」ご希望の場合の配送先住所と連絡先（できればメールも記載）